

# 石高神社報

第五号

発行日 平成元年七月十日

発行者 宮司 高原 章兆

発行所 岡山市円山八五三

石高神社

## 石高神社の修理報告

昨年秋より社殿等の修理のための御寄進をお願いしていましたが、皆様方の御理解と御協力により、当初の目標を上回る御寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。早速施工業者の選定にかかり、検討しました結果、地元の新東住建に決定しました。次いで五月九日には起工の御祭りを行ない、直ちに工事にかかりました。その後、幣殿の屋根葺き替え、社務所の取り壊し、御本殿・幣殿・釣殿回りの一部補修、表門東側の石垣修理と、着実に工事が進んでいます。七月一日現在、幣殿の屋根葺き替えが少し残っていますが、輪くぐりまでにはすべて終了の予定です。収支決算につきましては、修理費用の支払い完了後、遅くとも年内には報告させていただく所存です。

なお、趣意書に書いてありました「一定額」というのを一万円とし、一万円以上寄付を賜りました方の御芳名をしばらくの間拝殿に掲示することになりました。また、奉加帳は輪くぐりと秋祭り当日には自由に閲覧できるようにし、その後社殿にて永久保存します。(保存さ

れている奉加帳のうち古いものでは、明治十年のものであります。)

## 石高神社の石造物

①

平素何げなく見ている石造物もよく見ると奉納された年月が彫っており、地域の歴史を感じさせてくれます。石高神社が裏手の高倉山からこの地に遷ったのが一六八二年ですので、それ以前の物は見えませんが、ほとんどが江戸時代末期のものです。

表門には四角型燈籠一对、狛犬一对、それに鳥居一基があります。燈籠には東西とも「文政十二己丑十一月吉日 中田普善」とあり、西側の狛犬には「文政十三年山表氏子中」、東側は「庚寅十二月吉日産子中」とあります。残念ながら鳥居には何も彫られていません。

裏門は沢田越しと呼ばれる山道から宮山の西側を通って山北の人達がお参りする参道でした。この裏門にも四角型燈籠一对、狛犬一对、鳥居一基があります。南側の燈籠には「天保十四年卯年二月吉日藤原邑講中」とあり、台石には「苔口牛之助、同 金次郎、人見銀次兵衛、遠藤善次郎、苔口末吉」と氏名が刻まれています。北側の

燈籠にも「服部、苔口、遠藤、石田、石原、大塚」という姓が見えます。狛犬には「藤原邑講 連中文政八乙酉年八月吉日」とあり、奉納者の名も彫ってあります。鳥居には何も見えません。

表門から上がってきた道と裏門から上がってきた道が合流するところに手水鉢があります。これには「文政十丁亥年六月吉日沢田邑氏子中」とあります。この段には柱だけになった鳥居もあり、風化の度合いから考えると一番古い石造物ではないかと思われまます。

石段を上りきると隨身門の東側にも、手水鉢があります。これには「文政十丁亥年六月吉日沢田村西谷講中」とあります。

以上いずれも一八二〇〜四〇年代に奉納されたものです。石垣修補も弘化年間で、この時期は参道周辺の整備に力をいれていた時期のようです。

### 末社紹介

#### ⑤

### 荒神社

#### 六

社殿の東側に大山咋神（おおやまくいのかみ）と火雷神（かぐつちのかみ）を祀る荒神社があります。大山咋神は須佐之男尊を祖父、大年神を父とし、開拓の父として崇められています。火雷神は火の神です。県下の荒神社の祭神はほとんどが荒ぶる神の須佐之男尊で、次いで火の神・竈の神系となっており、大山咋神を祀っている神社は希です。荒神は一口では言い表わせない神で、当

社では広範囲にわたる産土神・山の神・航海安全の神としての性格をもっているようです。

### 輪くぐり

#### ひとがたについて

七月三十一日の晩が夏祭りの輪くぐりです。今まではひとがたが一部の御家庭にしか届いていませんでしたが、できるだけ多くの御家庭にお届けするために今回から町内会組織の御協力をいただいで配布させていただくようになりました。また、今回から印刷したひとがたを切り取っていただくようにしましたので御了承をお願い申し上げます。

今年も昨年にひきつづき団扇を用意しています。夜店も出てにぎわいますので、夕涼みかたがたお参りください。

### 夜

#### 記



社報四号を発行してから、はや一年たってしまいました。この間、念願の幣殿の屋根葺き替えにとりかかることができ、貴重な一年間でした。また、年号も昭和から平成と変わり、新しい時代へと変化しています折、神社の運営自体も時代に適応していかなければなりません。なにはともあれ氏子の皆様あつての石高神社です。今後共よろしくお願い申し上げます。